

別表－1 知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間中の中間総括と課題

	第1期			第2期		
	管理計画における管理手法	結果概要	課題等	管理計画における管理手法	結果概要	課題等
遺産地域A地区	①同地区のエゾシカ越冬個体数の推移を把握すると共に、越冬地と非越冬地に長期調査区と指標植物を適宜設定し、それらの動向から保全状況をモニタリングする。	・環境省および林野庁により、海岸、高山、森林における基本的な広域調査区を設定し、モニタリングを実施した。	・指標植物の設定。 ・中長期的なモニタリングの実施。	①: 越冬数の推移を把握すると共に、植生等の調査を実施し、それらの動向から保全状況をモニタリングする。	・環境省および林野庁により設定した広域調査区においてモニタリングを実施した。	指標種を用いた簡易的なモニタリングの実施、個体数調整の効果の検証。
	②希少な在来植物種や群落は特に留意し、必要に応じて防御的手法でこれらを保全する。	・環境省により、シレットコスミレの採食状況の把握、知床沼や羅臼湖における植生調査等を実施した。	・防御的手法による保全の必要性の検討。	②: 希少な在来植物種や群落は特に留意し、必要に応じて防御的手法により、これらを保全する。	・環境省により、シレットコスミレの採食状況の把握、知床沼や羅臼湖における植生調査等を実施した。	指標種を用いた簡易的なモニタリングの実施、個体数調整の効果の検証。
特定管理地区	同地区のエゾシカ越冬数の推移を把握すると共に、海食台地部と森林部に既存の調査区を有効に活用しつつ長期調査区と指標植物を設定し、植生、植物相、採食圧等のモニタリング調査を進めながら、必要に応じて下記の手法を講じる。	・環境省および林野庁により、海食台地部においては、密度操作実験の結果評価のためのモニタリングを実施するとともに、森林部分には広域採食圧調査区を設定した。	・指標植物の設定。 ・中長期的なモニタリングの実施。	越冬数の推移を把握すると共に、植生、植物相、採食圧等のモニタリング調査を進めながら、必要に応じて下記の手法を講じる。	・環境省および林野庁により、海食台地部においては、密度操作実験の結果評価のためのモニタリングを実施するとともに、森林部分に設定した調査区で広域採食圧調査を実施した。	指標種を用いた簡易的なモニタリングの実施、個体数調整の効果の検証。
	①防御的手法で植生を保護する。	・環境省および林野庁により、海岸植生および森林植生の植生保護柵の維持管理を実施するとともにモニタリング調査を実施した。	・定期的に巡視、メンテナンスを行う管理体制の整備。	① 防御的手法で植生を保護する。	・環境省および林野庁により、海岸植生および森林植生の植生保護柵の維持管理を実施するとともにモニタリング調査を実施した。	・中長期的な維持管理体制の確立
	②実施可能性を検討した後にエゾシカ密度操作実験を実施する。	・環境省により、2007年から3年間の密度操作実験を実施した。	・効率的な手法による、中長期的な個体数調整の実施。	② 知床岬先端部地区を分断する捕獲補助のための仕切り柵を設置し、個体数調整を実施する。	・環境省により、密度操作継続実施した。	・仕切り柵の中長期的な取扱い
遺産地域B地区	同地区のエゾシカ越冬数の推移を把握すると共に、斜里町側(100平方メートル運動地、岩尾別川下流域の河畔林等)と羅臼町側それぞれに、既存の調査区を有効に活用しつつ長期調査区と指標植物を設定し、モニタリング調査を進めながら、必要に応じて下記の手法を講じる。	・環境省および林野庁により、広域採食圧調査区を設定した。	・指標植物の設定。 ・中長期的なモニタリングの実施。	同地区のエゾシカ越冬数の推移を把握すると共に、斜里町側(100平方メートル運動地、岩尾別川下流域の河畔林等)と羅臼町側それぞれでモニタリング調査を進めながら、必要に応じて下記の手法を講じる。	・環境省および林野庁により設定した調査区において広域採食圧調査を実施した。	指標種を用いた簡易的なモニタリングの実施、個体数調整の効果の検証。
	① 防御的手法で植生を保護する。	・林野庁および斜里町により、植生保護柵および樹皮保護ネットの設置と維持管理を実施した。	・中長期的な維持管理体制の確立。	① 防御的手法で植生を保護する。	・林野庁および斜里町により、植生保護柵および樹皮保護ネットの設置と維持管理を実施した。	・中長期的な維持管理体制の確立
	② 岩尾別地区及びルサー相泊地区において、実施可能性を検討した後に、密度操作実験を実施する。	・環境省により、ルサー相泊地区では、密度操作実験の実施のための捕獲手法の試行を行った。 ・岩尾別地区では、密度操作実験の実施可能性の検討を実施した。	・シャープシューティングによる捕獲は効率性に課題。 ・岩尾別地区での捕獲手法の検討、確定。	② 幌別ー岩尾別地区及びルサー相泊地区において、実現可能性を検討した後に、密度操作実験を実施する。	・環境省により、ルサー相泊地区、幌別・岩尾別地区において密度操作実験を行った。	・幌別地区に分布するシカへの捕獲圧の追加
③ 人為的要因によりエゾシカの越冬に適した環境となっている地域の越冬環境を改変する。	・環境省により、道路法面の改変面積を可能な限り最小限とするよう指導を実施した。 ・斜里町により、開拓跡地の森林再生を実施した。	・既存の道路法面等の越冬環境の改変のための手法検討。	③ 人為的要因によりエゾシカの越冬に適した環境となっている地域の越冬環境を改変する。	・環境省により、道路法面の改変面積を可能な限り最小限とするよう指導を実施した。 ・斜里町により、開拓跡地の森林再生を実施した。	・既存の道路法面等の越冬環境の改変のための手法検討。	
隣接地区	同地区のエゾシカ越冬数の推移や遺産地域との移出入を把握すると共に、植生等の既存の調査区を有効に活用しつつ長期調査区と指標植物を設定し、モニタリング調査を進めながら、必要に応じて下記の手法を講じる。	・環境省および林野庁により、広域採食圧調査区を設定した。	・指標植物の設定。 ・中長期的なモニタリングの実施。	同地区のエゾシカ越冬数の推移や遺産地域との移出入を把握すると共に、植生等のモニタリング調査を進めながら、必要に応じて下記の手法を講じる。	・環境省および林野庁により、第1期に設置した調査区において広域採食圧調査を実施した。	指標種を用いた簡易的なモニタリングの実施、個体数調整の効果の検証。
	①防御的手法で植生を保護する。	・林野庁および斜里町により、植生保護柵および侵入防止柵の設置を実施した。	・中長期的な維持管理体制の確立。	① 侵入防止柵などの防御的手法により植生の保護や地域住民との軋轢緩和を図る。	・林野庁および斜里町により、植生保護柵および侵入防止柵の維持管理を行った。	・中長期的な維持管理体制の確立
	② 人為的要因によりエゾシカの越冬に適した環境となっている地域の越冬環境を改変する。	・環境省により、道路法面の改変面積を可能な限り最小限とするよう指導を実施した。	・既存の道路法面等の越冬環境の改変のための手法検討。	② 人為的要因によりエゾシカの越冬に適した環境となっている地域の越冬環境を改変する。	・環境省により、道路法面の改変面積を可能な限り最小限とするよう指導を実施した。	・既存の道路法面等の越冬環境の改変のための手法検討。
③真鯉地区において、実施可能性を検討した後に、密度操作実験を実施する。	・真鯉地区では、密度操作実験の実施可能性の検討を実施した。	・真鯉地区の今後の扱いの検討。	③ 地元自治体を中心に実施されている有効活用も視野に入れた生体捕獲や、銃猟捕獲などコミュニティベースの個体数調整を、必要に応じて支援する。	・林野庁により、管理捕獲の実施、林道除雪による一般狩猟支援、林野庁等三者協定等コミュニティベースによる捕獲の支援を行った。	・効率的な手法による、中長期的な個体数調整の実施。	